

# 中国残留日本人のルーツを訪ねて

「コスモスの会」有志11人（うち、外部2人）で旧満州の北部、黒龍江省を訪れた。日本の国土の約1.3倍、47万平方kmの広大な大地だ。旅の目的はハルビン、方正、樺南、佳木斯に日本人が残した足跡を訪ねることだった。旅は7月31日、ハルビンから始まった。

## まさしく交通戦争

なにより私たちを驚かせたのは、この国の交通ルールである。「車優先、人は次」を地でいく車の暴走。道路は一日中、車のクラクションが、ひっきりなしに鳴っている。空間があれば早い者勝ち。歩行者だって車の間をぬって平気で横断。

## 高速道路を佳木斯へ

予定より1時間遅れ、約5時間で佳木斯に着く。ここでは今回事情で参加できなかった福田順子さんが敗戦（2歳）まで住んだ生家を探した。彼女が叔母さんの記憶から書いたという地図を頼りに歩いた。駅や川にかかる橋の位置は変わって



孟家崗駅で記念撮影。参加者9人とガイドの房さん（左）

いないが、残念ながら、地図に描かれた建物は無く、唯一戦前からあるという大きな給水塔を見つけた。その写真をお土産にすることにした。

泊まったホテルからは松花江が見え、川沿いに公園があった。夕方になると多くの人たちが集まり、ダンスが始まった。

このダンス（広場舞）は佳木斯から中国各地へ一大ブームを起しているという。

## 開拓団の入植地へ

8月1日、朝食を終え、目的地、第一次武装移民の入植した弥栄村（現・孟家崗）に向かった。バ

又は牡丹江方面への鉄道の線路に沿って走った。煉瓦つくりの農家、トウモロコシ畑、水田、大豆畑などが続く。道路は狭くバスでは入れない。孟家崗駅構内で記念撮影した。さらに南へ、千振村（現・南鎮）へ向かった。当時の小学校があったが、この建物以外にはないと諦めた。近くにはいた少年が声をかけてきた。

「日本人の建てた家がある」という。家の中に入れてもらい居住者と交流した。新聞紙を張り重ねた部屋の壁、傾いた屋根はこの家の歴史を物語っていた。

8月2日、土竜山を経て依蘭の南、道台橋鎮に出た。この地には、かつて京都府天田郡（現・福知山市）から送り出された開拓団が入植していた。今回、同行した中国残留孤児、大中はつるさんは45年6月、8歳の時、家族と一緒にこの村に入植、2か月後に敗戦を迎えた。この村の近くには飛行場の跡があった。戦後68年の時を経た今、トウモロコ

シ畑の中にコンクリートの残骸が日本軍の足跡を残していた。

## 3000人が犠牲になった施設

方正を経て、ハルビンに戻り、8月4日、中国人などを使った生物・化学兵器の生体実験現場（731部隊）跡を目の当たりにした。日本軍は人間を物として実験に使ったのだ。これが戦争の本質なのか。二度と戦争は起こらないでと痛切に感じ

## 大中はつるさんが暮らした村

旅の最後の日、大中さんが日本に帰国するまで暮らしたハルビン近郊の農村、阿城を訪問した。たちまち村の人々が集まった。足元ではガチョウや鶏、犬が餌を食べている。のどかな田舎の屋下がりであった。どの顔も懐かしさいっぱい、感激の涙。話は尽きなかった。

大中さんは8歳で残留孤児となり、孤独に耐え生きた。学校にも行けなかったが、明るく懸命に生きた証が出迎えてくれた村の人たちの表情に表れていた。彼女の明るさと中国語のおかげで、この旅は成功したとい

も過言ではない。彼女は私たちが残留孤児のルーツをたどり行く先々で、現地の人とのかけはしになった。（参加者一同）

## 学習者の紹介

牡丹グループの韓恵仁さんを紹介します。韓さんは中国残留日本人孤児（バラ組の松倉秀子さん）の配偶者です。



牡丹グループで学習する韓恵仁さん

Q いつ日本に生まれませんか？  
A 1968年、妻の帰国時に一緒に来ました。

Q 今まで一番の苦労は？  
A 仕事上の事故で肋骨を3本折った時、病院へも連れて行ってもらえなかった。怪我で入院した時、酒に酔った入院患者に突然ビール瓶で頭を殴られた針

縫う大けがをさせられた。体力があったので定年も2年延長されたが、必要でなくなると「明日から来なくていい」と首切り。有給休暇24日分の支払いはなく、退職金も1ヶ月だけ（日本人は3ヶ月）。仕事がとても厳しくても頑張っていたが、中国人というところで差別された。

Q なんとならういご経験でしたか？  
A その後も言葉の壁で職探しに大変な苦労をしたが、63歳まで働きました。

Q 今、一番楽しいのは？  
A 夜間中学で学ぶのが一番うれしい！楽しい！幸せです。

Q 日本語教室はどうですか？  
A 今、宝塚と尼崎と2か所に行っています。

Q 今まで一番よかったことは？  
A うーん……（奥さんと出会えたことですか？の問いに）あまり考えないようになっている（と、はすかしそうに顔を赤らめておられました）。

身体は大きく力持ちだが「優しくて、チョッピリ照れ屋」の韓さん、尼崎日本語教室への注目を遠慮しながらも言ってくれました。これから一緒に日本語教室を良くしていきますよう！（神田眞佐江）

# 交流の広場

## 琵琶湖クルージングの旅

5月14日 晴天の下、午前中は広い三井寺を散策しました。午後から待望の琵琶湖周遊クルージング船に乗りました。



クルージングの後、外輪船ミシガンを背景に

デッキに立つと、五月の爽やかな風を受け思わず美しい対岸景色に見とれてロマンチックムード満点でした。船はゆっくりと進みました。景色が徐々に小さくなり、琵琶湖の大きさを実感しました。遮るものがない広い湖上で深呼吸をして開放感を感じている人、談笑する人、船内探検する人、室内ゲームに興じる人、皆それぞれの楽しみ方でゆったりとした時間を過ご

## バス旅行に行くと

私は妻と5月14日火曜日にコスモスの会春のバス旅行に参加しました。大勢の方にお世話になりました。とても楽しく遊びました。ありがとうございます。

私も妻と5月14日火曜日にコスモスの会春のバス旅行に参加しました。大勢の方にお世話になりました。とても楽しく遊びました。ありがとうございます。

私は、妻を自分で連れて彼方此方に行くつ

## 中国語でおしゃべり

日本語教室の学習者から日本語の学習以外に自由に集まり、談笑できる場が欲しいという要望がありました。また、日本語教室スタッフからも学習者とスタッフが、学習活動以外に気軽に集まり、中国語も交え、お茶を飲んだり雑談が出来る場が確保できないだろうか、という声がありました。そこで、学習者とスタッフの数名が、中国語を主体としたくつろぎの場「おしゃべりサロン」を企画し、6月23日（日）に第



サロンの運営について相談。この日は日頃の先生と学習者が入れ替わりました。

- | 主な行事  |                           |
|-------|---------------------------|
| 5月25日 | 生け花教室                     |
| 6月23日 | フラダンス                     |
| 7月6日  | 中国語おしゃべりサロン               |
| 7月6日  | 浴衣の着付け・盆踊り                |
| 9月22日 | 中国語おしゃべりサロン               |
| 9月22日 | 手芸教室                      |
| 9月28日 | 中国語おしゃべりサロン               |
| 9月28日 | 講演会「中国残留日本人の人生からたどる女性の人権」 |

一回目を開催しました。初めての試みなので、どのように進めたらいいのか全く手探りでした。この日の進行は、帰国者二世の韓静さんが行いました。

出席者24名は、それぞれ自分が話せる範囲で中国語と日本語で自己紹介。学習者側はネイティブである中国語はペラペラ、日本語は四苦八苦（一部日本語が堪能な人もいます）。逆にスタッフ側は日本語がペラペラ、2、3人を除けば中国語はあいさつが精一杯。それでも雰囲気は和気藹々として、あっという間に2時間経ってしまいました。（田村博志）



先生に合わせ、レイヤアロハ服を身につけ踊りました

## 誰でも踊れる？フラダンス

「大人になってからダンスを始めるのは難しいのでは？」と太っているから激しいレッスンは？「フラダンスには、そんな心配は無用です。そんなことから6月23日（日）の文化交流教室でフラダンスを楽しみました。まず基本の足ステップを3つ（カホロ・カオ・ヘラ）その次に言葉を表す手の動き。月・波・みんな・あな

た・私・踊る・曲はフラダンスの定番の月の夜は、練習開始。先生の動きを真似ながら、手と足の動きを順にマスター。そして音楽に合わせて腰を揺らし、手と足を動かすと、手足がなかなかそろわず大変でした。緩やかな動きなのに、大変な運動量。すぐに汗ばんできました。うまく踊れる人もあり、なかなかついていけない人もありましたが、みんな楽しんで踊っているのを見て、カメラマンにはいい感じに見えたそうです。どんどん盛り上がり、3月の学習発表会で、ぜひやりたいという話まで出ました。（松本康子）